

結核集団感染の発生について

平成29年8月から市内にて結核患者が発生し、平成30年9月18日までに発病者^{※1}11人と感染者^{※2}1人を確認しました。疫学調査結果及び発病者の結核菌遺伝子型が一致したことから結核集団感染^{※3}事例と判断し、厚生労働省へ報告しましたので、その概要をお知らせします。

1 概要

市内医療機関の同一病棟において結核患者が発生し、発生当初から患者の療養支援及び接触者健康診断を行うとともに、感染症法に基づく患者調査を行いました。感染源の特定には至っておりません。経過は以下のとおりです。

(1) 経過

- 平成29年8月～12月 職員4人と元入院患者1人の発病者が診断される。
- 平成29年12月 集団感染対策委員会を開催。感染源が不明であり、同一感染源からの感染とは断定できなかったため、引き続き調査と感染対策強化を行うこととなる。
- 平成30年1月～7月 職員1人と元入院患者2人の発病者が診断される。
元入院患者1人が平成29年12月に発病していたことが判明。
発病者のうち結核菌が得られた3人の結核菌遺伝子型の一致を確認。
- 平成30年8月 退職職員1人が平成30年4月に感染していたことが判明。
集団感染対策委員会を開催し、これまでの発病者は、それぞれの発症時期、症状等から感染源とは考えられないと判断され、感染源不明ではあるが、結核菌遺伝子型が一致したことから、集団感染事例と判断され、接触者健診の対象者を拡大して実施予定となる。
- 平成30年9月 職員1人、元入院患者1人の発病者が診断される。
- 平成30年9月14日 結核菌が得られた5人の結核菌遺伝子型一致が確認される。
- 平成30年9月18日 集団感染事例として、厚生労働省へ報告。

(2) 感染者数^{※3} (発病者^{※1}11人×6) + (感染者^{※2}1人×1) = 67人

平成30年9月18日現在

	発病者	感染者	健診対象者(実施予定含)
職員	6	1	47
入院患者	5	0	147
合計(人)	11	1	194

(3) 今後の対応

発病者及び感染者は、他者に感染させるおそれはありません。

発病者及び感染者に対しては、服薬治療が継続できるように療養支援を行い、健康状態を確認していきます。また、引き続き医療機関とともに感染対策を推進し、健診対象者については定期的な健康状態の把握を行います。

注) *1 発病者

結核菌が体内に取り込まれて増殖し、免疫力で抑えることができず、咳や痰、発熱、体重減少、胸痛などの症状を引き起こしたりする状態の人です。発病しても、体外に結核菌を排出して人に「感染させるおそれのある人」と、体外に排出していない「感染させるおそれのない人」がおり、前者は入院による治療、後者は通院による治療となります。

*2 感染者

結核菌を体内に取り込んではいませんが、結核菌に対する免疫力で発病を抑えている状態の人です。感染者も予防的に治療する場合があります

*3 感染者数及び結核集団感染の定義 (厚生労働省の通知による)

同一感染源が2家族以上にまたがり、20人以上に結核を感染させた場合をいいます。また、感染者数の計算方法は、発病者1人を6人が感染したもとして計算します。

2 川崎市の結核状況

- ・川崎市における平成29年の結核罹患率は人口10万人あたり14.4です。
(全国の結核罹患率13.3)
- ・働き盛りの年代(20歳代~50歳代)の患者割合は全国よりも高い状況です。
- ・結核患者への調査の結果、「受診の遅れ」「診断の遅れ」のあった者は微増傾向です。

3 感染症法における人権保護について

感染症法に基づき、感染症患者の人権保護については特段の配慮を求められておりますので、御理解、御配慮いただけますようお願いいたします。

連絡先

川崎市健康福祉局保健所感染症対策課 小泉

電話044(200)2446

結核について

結核とは？

- 「結核菌」という細菌が体の中に入り、増えることによって起こる感染症です。
- 結核は感染症なので、発病して病気が進行するとうつる（又はうつす）可能性があります。
- せきやくしゃみをするすると飛沫（しぶき）に含まれる結核菌が空気中で飛び散り、それを他の人が吸い込むことにより「感染」します(空気感染)。
- ただし、結核菌を吸い込んでも必ず「感染」するわけではありません。多くの場合、体の抵抗力により追い出されるため、感染は成立しません。

結核の症状

- 初期の症状はカゼと似ていますが、せき、痰（たん）、発熱（微熱）などの症状が長く続くのが特徴です。また、体重が減る、食欲がない、寝汗をかく、などの症状もあります。症状は良くなったり悪くなったりしながら徐々に進行します。
- さらにひどくなると、だるさや息切れ、血の混じった痰（たん）などが出始め、咯血（血を吐くこと）や呼吸困難に陥ることもあります。

「感染」と「発病」は違います！

- 「感染」は結核菌を体内に取り込んではいませんが、結核菌に対する免疫力で発病を抑えている状態です。「感染」の段階では結核菌を人にうつす事はありません。
- 「発病」は結核菌が体内に取り込まれて増殖し、免疫力で抑えることが出来ず、X線検査などで所見が出たり症状が出たりする状態です。
- 感染してから2年くらいの内に発病することが多いとされており、発病者の60%の方が1年以内に発病しています。しかし一方、感染後の数年～数十年後に結核を発症することもあり、一生発病しない方もいます。

＜市民の皆様へ＞

日本の結核罹患率は全国的に減少傾向ですが、依然として多くの方が感染しています。結核は入院が必要な状態になってから診断されることが少なくありません。2週間以上続く咳やたんなど、気になる症状があるときは、まん延防止のためにも、早めに医療機関を受診してください。

また、1年に1回は胸部X線検査を受け、必要に応じて精密検査を受けてください。

結核は過去の病気ではありません。80歳以上の方が、かつて日本に結核がまん延していた頃に感染し、免疫力の低下により発病・再発する場合があります。

＜医療機関の皆様へ＞

長引く咳嗽などを診療する際には、結核も念頭に置いた診療をよろしくお願いします。